

## 高等部

### 1 高等部の教育目標

- (1) 言語力の充実と基礎学力の確かな向上をめざし、社会参加のための豊かなコミュニケーション能力を身につけさせる。
- (2) 望ましい勤労観・職業観を育成し、自立して社会参加するための知識・技能・態度を養う。
- (3) キャリア教育を通して自己理解や他者理解を深め、人間関係形成能力の発達と社会で生きていく力の育成、希望する進路実現を目指す意欲と態度を育てる。
- (4) 健康・安全に対する意識を高め、生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。
- (5) 人権感覚を磨き、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性、忍耐強い心、生きる力を育て、社会人としての素地を培う。

### 2 教育課程編成の方針

- (1) 卒業後、自立し社会参加をするために必要な目指すべき資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考・判断・表現等」「学びに向かう力、人間性等」）を明確にした上で教育目標や内容等を設定する。
- (2) 一般学級においては、学習指導要領を基に高等学校に準じた教育課程を編成し、生徒の実態に応じて指導内容を弾力的に選定する。
- (3) 重複障害学級（知的代替）においては、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上で個々の生徒の実態に応じて効果的に実施するために教科別の指導や教科等を合わせた指導を弾力的に編成できるようにする。
- (4) 各学部、各学年間の連携を図り、学びの連続性を重視した指導内容等を編成する。
- (5) 教科横断的な視点も含め、各教科等の基礎的・基本的な事項に重点を置き、自立活動との関連も押さえた指導の充実を図る。
- (6) 生徒の障害の状態や発達段階に即した指導が十分に行われるよう弾力的に編成する。
- (7) 自立と社会参加を目指すために、一人一人のキャリア形成と自己実現に必要な知識・技能及び態度を培う指導の充実を図る。
- (8) 望ましい集団活動（他校との交流教育含む）を通して、自他の理解やコミュニケーション能力等の人間関係形成能力を育み、自主的・実践的態度の育成を図る。
- (9) 個別の指導計画及び個別の移行支援計画を作成し指導の充実が図れるよう編成する。

### 3 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な探究の時間、特別活動、自立活動の指導の重点

指導計画の作成と各学年の内容の取り扱いに当たっては、教科横断的な視点や学びの連続性を踏まえた上で、次の事項に配慮する。

- (1) PDCA サイクルを踏まえた年間指導計画を作成し、各学年の内容の取り扱いに当たっては、適切な評価や教育課程編成に繋げ、カリキュラムマネジメントを推進する。
- (2) 生徒の積極的な言語活動を促し、抽象的、論理的な思考力の伸長に努める。
- (3) 生徒の言語力に応じた読書指導を行い、適切な読書習慣の形成を図り、主体的に情報を獲得し、適切に選択・活用する態度を養うようにする。
- (4) 生徒の聴覚障害の状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点をおいて指導する。
- (5) 補聴器・人工内耳及び聴覚支援システムの利用により、生徒の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにする。
- (6) 視覚的に情報を得やすい教材・教具や ICT 機器を有効に活用し、指導の効果を高めるようにする。
- (7) 生徒の聴覚障害の状態等に応じ、音声、文字、手話等のコミュニケーション手段の有効な活用を図り、意志の相互伝達が正確かつ効率的に行われるようにする。
- (8) 生徒の障害の実態や多様性等を踏まえ、学習の形態・方法や内容等を柔軟に対応し、学習保障と効果的な学習活動が行えるよう配慮する。

#### 4 交流及び共同学習の重点

- (1) 他校との交流を通して生徒相互の理解を深める。
- (2) 幅広い体験活動を通して視野を広め、豊かな人間性や社会性を養う。
- (3) 障害を認識し、積極的に社会に参加する意欲を育てる。

#### 5 生徒指導の重点

- (1) 高校生として必要な基本的な生活態度や規範意識を身につける。
- (2) 自己の属するさまざまな集団の意義を理解し、協力し合って集団生活ができる。
- (3) 自分の行動に責任を持って正しく判断し、自主的な行動ができる。

#### 6 キャリア教育の重点

- (1) 目的意識を持ち、自分で考え、計画し、行動に移し、様々な人々と協同して社会を支えることのできる能力・態度を養う。
- (2) 生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく事（キャリア発達）を促す。
- (3) キャリア教育の全体計画・年間指導計画を作成し、それらは教育活動全体を通して、組織的及び系統的に行われる。
- (4) 生徒たちの実態を踏まえてキャリア教育の目標を設定し、教科横断的な視点で教育の内容を組織的に配列して教育課程を編成し、それを実践し、評価し、改善を図っていく。
- (5) 教育活動全体を通して「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」をもとにした個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援を行う。
- (6) キャリア教育で育成すべき能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）の向上を推進する。
- (7) 就業体験実習をキャリア教育の重要な取り組みとして位置づける。
- (8) 授業展開の中にキャリア教育としての価値が潜んでいる場合に、その価値を見だし、学校の学びと社会とのつながりの意識を促す。
- (9) 特別活動で行っている活動をつなぎ、振り返ったり、見通したりする活動をキャリアパスポートによって積み重ねていくように、教師が対話的に関わり指導する。またそれにより、生徒は自己理解を、教師は生徒理解を深めることとする。
- (10) 聴覚障害者が事業所で直面しがちなコミュニケーションに関する課題について教育活動全体を通して指導する。

#### 7 生涯学習への意欲を高める指導の重点

学校教育を通して身に付けた資質・能力を活用し、卒業後も必要な支援を受けながら学習、文化など生涯を通して豊かな生活が送れるよう知識や能力、態度を養う。

#### 8 ICT 機器利活用の重点

- (1) 生徒の情報活用能力の育成を図るため、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る。
- (2) 各教科において生徒に ICT 機器を適切かつ主体的、積極的に活用させ、情報社会に参画する態度の育成を図る。

#### 9 安全教育の重点

- (1) 健康で安全な生活を営むための、習慣や態度を育てる。
- (2) 防災についての意識を高め、災害時に正しい判断で行動する実践力をつけるようにする。

#### 10 授業日数配当表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年	15	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	13	197
2年	16	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	13	198
3年	16	20	21	13	0	20	21	20	17	18	19	1	186